

CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤森和夫様 マンション 新築工事	階数	地上5F
建設地	さいたま市東区東大門第一ビル跡地(東区東大門一丁目4番9号)	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化区域 第1種	平均居住人員	109 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2022年2月16日
敷地面積	1,719 m ²	作成者	東建コーポレーション(株) 一級建築士事務
建築面積	630 m ²	確認日	2022年2月17日
延床面積	2,652 m ²	確認者	東建コーポレーション(株) 一級建築士事務



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
総合 潜熱回収型給湯器やLED照明を使用することにより、建物全体の設備システム高効率化に努めた		特になし
Q1 室内環境 住戸専有部分について、高い昼光率を確保するとともに断熱性等級④を全住戸で達成した	Q2 サービス性能 標準的な配慮を行っている	Q3 室外環境(敷地内) 出来る限りの緑化に努め、良好な景観を形成した
LR1 エネルギー 各住戸の断熱性等級4を達成・住宅全体のBEIを0.90とし省エネルギー性能に配慮した設計とした	LR2 資源・マテリアル 二重天井を採用し、出来る限り資源の再利用に配慮した	LR3 敷地外環境 適切な駐車/駐輪場を確保

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEEさいたま2016年版
 (仮称)備前和夫様 マンション 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境			0.40		-				3.3
1 音環境		-	0.15	3.0	1.00				3.0
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	0.50				
1.2 遮音		-	-	3.0	0.50				
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	3.0	-				
2 温熱環境		-	0.35	3.1	1.00				3.1
2.1 室温制御		-	-	3.3	0.50				
1 室温		-	-	3.0	0.63				
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当を	-	-	4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		-	-	3.0	0.20				
2.3 空調方式		-	-	3.0	0.30				
3 光・視環境		-	0.25	3.6	1.00				3.6
3.1 昼光利用		-	-	4.0	0.30				
1 昼光率	昼光率=2%以上	-	-	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備		-	-	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		-	-	4.0	0.30				
1 昼光制御	カーテン・庇を組み合わせてグレアを制御	-	-	4.0	1.00				
3.3 照度		-	-	3.0	0.15				
3.4 照明制御		-	-	3.0	0.25				
4 空気質環境		-	0.25	3.6	1.00				3.6
4.1 発生源対策		-	-	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を内装全面に使用	-	-	4.0	1.00				
4.2 換気		-	-	3.0	0.38				
1 換気量		-	-	3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				2.7
1 機能性		2.4	0.40	3.0	1.00				2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	3.0	0.40				
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-				2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁仕上タイル 補修必要間隔=40年	5.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.2	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		1.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		1.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.3	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり			-	-	1.6	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を達成	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.90	4.0	0.50	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		二重天井を採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	新発泡剤HFO(ODP=0かつGWP=50未満)を採用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=95%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	